

⑤ ジュンパ・ラヒリ 著 小川高義 訳

『その名にちなんで=』  
The namesake』

(新潮社)

自分の名前。それは様々な想いを込めて親がつけてくれたもの。だけれども好きになれず、またその思いを口にする事もできない辛さ。アメリカに暮らすインド系移民の夫婦が、夫の死を免れた体験にちなんで、生まれた息子に「ゴーゴリ」と名付けますが、彼はその名が嫌でたまらず、進学を機に改名します。まるで生まれ変わったかのような日々だったのですが…。デビュー短編集『停電の夜に』でピュリツァー賞などを受賞したインド系の女性作家による、胸にしみるストーリーです。

933-Lah (N.T.)

⑦ 日本雑学研究会 著

『海外ブランドの秘密』

(毎日新聞社)

本書には世界の一流ブランドが生まれるまでの秘密の物語がぎっしり書かれています。

その内容はジーンズ、紅茶、文具、日用品など多種に及んでいます。たとえば、バーバリーのコートはもともと戦争用のものであったことはよく知られていると思いますが、シャネルの香水が何故5番なのかとか、バンドエイドは切り傷が耐えなかった妻のために考えだされたものということは、知られていないと思うのですが、どうでしょうか。

本書1冊読めば、あなたもかなりの雑学家になれること間違いなしです。

675.1-Nih (N.K.)



⑥『世界ウルルン滞在記：』  
旅ではじけた11人の新しい魅力』

(TBSサービス)

本書は、日本の11人の若者が世界各地を訪れ、さまざまな民族と出会った貴重な体験が綴られています。

現地の家族と一緒に慣れない作業をしたり、ときには食事でゲテモノを食べたり、…。文化や価値観の違いから困惑することも多々ある中で、孤軍奮闘する彼らの健気さや素直さなど、新鮮な感動にふれることが出来るでしょう。

僅かな滞在期間の間に、言葉や肌の色は違ってても互いに理解し合い、強い絆で結ばれる感動的なシーンを本書は紹介しています。

290.9-Seka (T.K.)

⑧ 黒田正子 著

『京都語源案内』

(光村推古書院)

普段何気なく使っている言葉の中には、京都から生まれた言葉があります。「へそくり」、「うるさい」、「きちょうめん」、「たんぼほ」などの言葉が実は、京都の自然、文化・生活から生まれ育まれてきた言葉なのです。その言葉のルーツを辿っていると、昔の日本人の暮らしぶりをそこに見ているような、京の街角からふと、昔の見知らぬ路地に迷い込んだようなそんな不思議な感覚さえします。あなたもこの本を読んで昔の不思議、異文化体験してみませんか？

812-Kur (S.S.)